

8th JSMD プログラム

基調講演

招待講演

会長講演

教育セミナー1～4

教育講演1～3

シンポジウム1～8

双極性障害委員会企画シンポジウム

用語検討委員会企画シンポジウム

コメディカル委員会企画シンポジウム

交流の広場

第5回うつ病診療講習会

モーニングセミナー1～2

ランチョンセミナー1～7

イブニングセミナー

市民公開講座





基調講演

7月1日(金) 13:30 ~ 14:20

第1会場(大ホール)

Hippocratic psychopharmacology of mood disorders

司 会	村井 俊哉	京都大学大学院医学研究科精神医学
演 者	S. Nassir Ghaemi	Tufts Medical Center/Tufts University School of Medicine

招待講演

7月1日(金) 14:20 ~ 15:10

第1会場(大ホール)

リスク化する家族 – 戦後家族モデルの変遷と新たな家族像

司 会	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
演 者	山田 昌弘	中央大学文学部人文社会学科

会長講演

7月2日(土) 13:10 ~ 14:00

第1会場(大ホール)

うつ病臨床のゆくえ – 求められるしなやかな病態把握

司 会	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
演 者	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室

教育セミナー 1

7月1日(金) 15:20 ~ 16:35

第3会場(小ホール)

がん患者で見られる抑うつの評価と対応法

座 長	宮岡 等	北里大学医学部精神科学
演 者	内富 庸介	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室

教育セミナー 2

7月1日(金) 15:20 ~ 16:35

第4会場(銀杏)

職場結合性うつ病 – 疾病論的位置づけと病態、治療的対応

座 長	木下 利彦	関西医科大学精神神経科
演 者	加藤 敏	自治医科大学精神医学教室

教育セミナー 3

7月2日(土) 9:00 ~ 10:15

第3会場(小ホール)

うつ病の見立てと回復支援

座長	仙波 純一	さいたま市立病院精神科
演者	内海 健	東京藝術大学保健管理センター

教育セミナー 4

7月2日(土) 10:30 ~ 11:45

第3会場(小ホール)

「うつ状態」の診断書をめぐってー精神科医と産業医の連携

座長	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	夏目 誠	大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科

教育講演 1

7月2日(土) 11:00 ~ 11:50

第2会場(さくら)

気分障害の薬物療法ー抗うつ薬開発の現状と課題ー

司会	米田 博	大阪医科大学神経精神医学教室
演者	樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

教育講演 2

7月2日(土) 14:10 ~ 15:00

第3会場(小ホール)

保険診療下でのうつ病診療ー最小精神療法としての生活習慣指導ー

司会	福居 顯二	京都府立医科大学大学院精神機能病態学
演者	井原 裕	獨協医科大学越谷病院こころの診療科

教育講演 3

7月2日(土) 15:40 ~ 16:30

第2会場(さくら)

認知行動療法の現在

司会	切池 信夫	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
演者	大野 裕	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
共催	日本認知療法学会	



シンポジウム1 うつ病「増加」の実態を考える

7月1日(金) 9:30 ~ 12:00

第1会場(大ホール)

オーガナイザー 太田 敏男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

【趣旨・狙い】

昨今、大量服薬やリストカットなどの自傷行為、自殺、出社不能などの増加とともに、うつ病の「増加」が叫ばれ、生涯に発症する割合は数人に1人に達するという意見すらある。しかし、一方では、伝統的精神医学で言うところのうつ病はそれほどまでには増えていないという意見も根強い。本シンポジウムでは、さまざまな類型の抑うつについて、専門的立場から、概念・定義の変化と頻度の変化との両方の軸を論じる。各演者にはできるだけ症例も提示していただくこととし、それにより、各立場の主張を超えて、治療について意見交換する場としたい。

司 会 坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学教室
太田 敏男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

うつ病「増加」と「うつ病中核像」の移行

大前 晋 虎の門病院精神科

双極性障害の裾野を考える

仙波 純一 さいたま市立病院精神科

職場の「うつ」における適応障害とうつ病

山本 晴義 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター

高齢者うつ病の多面的側面

木村 真人 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

シンポジウム2 抗うつ薬と自殺関連事象－抗うつ薬の適正使用に向けて

7月1日(金) 9:30～12:00

第2会場(さくら)

オーガナイザー

石郷岡 純

東京女子医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

近年抗うつ薬の使用は拡大してきており、その恩恵を受けているものも多数にのぼっている半面、過剰診療や不適正使用への関心も高まってきている。一方、抗うつ薬と自殺関連事象との関連性も社会からの関心を集めている。本シンポジウムでは、抗うつ薬の適正使用を推進するために必要な知識を整理しながら、そのあり方について議論を深めていきたい。

司 会

石郷岡 純

東京女子医科大学医学部精神医学教室

大森 哲郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

抗うつ薬の適正使用とは

大森 哲郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

自殺患者と抗うつ薬使用

中村 純

産業医科大学医学部精神医学教室

薬理的観点から見た抗うつ薬の適正使用

井上 猛

北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

治療学から見た抗うつ薬の適正使用

大坪 天平

東京厚生年金病院精神科・心療内科



シンポジウム3 一般身体疾患と抑うつ

7月1日(金) 9:30 ~ 12:00

第3会場(小ホール)

オーガナイザー 坪井 康次 東邦大学心療内科

【趣旨・狙い】

うつ病は、精神疾患ばかりでなく、一般身体疾患にも併存・合併しやすい。身体疾患に抑うつが併存・合併すると日常生活は著しく障害され、QOLは低下し、症状の遷延化、予後の悪化を来す。今回のシンポジウムでは、一般によく見られる身体疾患と抑うつとの関係について、その頻度やQOL、治療との関係について論じ、より良い治療のあり方を検討することを目的とする。

司 会 野村 忍 早稲田大学人間科学学術院
塩入 俊樹 岐阜大学精神神経科

慢性頭痛とうつ

端詰 勝敬 東邦大学心療内科

脳虚血病変とうつ

平田 幸一 獨協医科大学医学部神経内科

虚血性心疾患とうつ

宗像 正徳 東北労災病院勤労者予防医療センター

産婦人科疾患とうつ

小川 真里子 東京歯科大学市川総合病院産婦人科

悪性疾患とうつ

吉内 一浩 東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学

シンポジウム4 ライフステージに即したうつ病へのアプローチ

7月1日(金) 9:30 ~ 12:00

第4会場(銀杏)

オーガナイザー 生野 照子 社会医療法人弘道会浪速生野病院心身医療科

【趣旨・狙い】

児童期・青年期・成人期（産後を含む）・高齢期などのライフステージにみられるうつ病について、その特色や治療、現状の動向などを明らかにし、その相違を検討する。

司 会 福永 幹彦 関西医科大学医学部心療内科学講座
生野 照子 社会医療法人弘道会浪速生野病院心身医療科

児童期のうつ

岡田 俊 名古屋大学大学院医学系研究科親と子どもの心療学分野

青年期のうつとそれに対するアプローチ

水田 一郎 神戸女学院大学人間科学部心理・行動科学科

成人期に見るうつ病の特徴と対応

村上 正人 日本大学医学部附属板橋病院心療内科

高齢期のうつ

山岡 昌之 国家公務員共済組合連合会九段坂病院心療内科



シンポジウム5 気分障害の分類に求められる地平

7月1日(金) 15:20 ~ 17:50

第1会場(大ホール)

オーガナイザー 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

うつ病の分類は古典的な内因性・神経症性・反応性といったカテゴリーから、今日主流となった操作的診断に至るまで様々に行われてきた。そもそも分類とは、「うつ病とは何か」という本質に係わることであり、うつ病論は分類論を巡って展開されてきたとも言えよう。最近の動きを見ると、結局古典的な考えに回帰するようにも思え、うつ病分類を巡っての基盤を考えるべきタイミングとして悪くないと思える。本シンポジウムでは、最新の知見を盛り込んで、双極性障害も含めた気分障害の分類基盤を考えたい。

司 会 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座
坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学教室

気分障害の分類の歴史的推移－歴史から現代の臨床へ

津田 均 名古屋大学学生相談総合センター
名古屋大学大学院医学系研究科精神健康医学

生物学的分類：見果てぬ夢

吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

薬物反応性からみた気分障害

山田 和男 東京女子医科大学東医療センター精神科

光トポグラフィー検査（NIRS）から見たうつ病

福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

シンポジウム6 うつ病の関連症状をみわける

7月1日(金) 15:20 ~ 17:50

第2会場(さくら)

オーガナイザー 阿部 隆明 自治医科大学精神医学教室

【趣旨・狙い】

DSM-IVなどの普及に伴いうつ病の診断は容易になったが、不安や解離、離人、強迫、心気症状などが顕著だと、抑うつは見逃されているか、安易にcomorbidityとみなされる傾向にある。こうしたケースは、古くより仮面うつ病として注目されていたが、病態把握や患者理解、治療の点で重要な問題を提起する。これは患者の個人的な傾向を反映するものなのか、うつ病自体に他の神経症症状への展開の方向性が内在しているのか、あるいは抑うつ症状とその他の症状との間に共通の生物学的基盤があるのか興味は尽きない。こうした点を踏まえつつ、ディメンショナルな診断が提案されているDSM-Vも念頭に置きながら、うつ病の関連症状をめぐって診断的ならびに治療的な議論をする。

司 会 阿部 隆明 自治医科大学精神医学教室
黒木 俊秀 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

うつ病と離人—離人がうつ病において語ること—

大塚 公一郎 自治医科大学看護学部

うつ病と不安

大前 晋 虎の門病院精神科

うつ病と強迫

中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

うつ病と解離

野間 俊一 京都大学大学院医学研究科精神医学教室

なぜうつ病の関連症状を診わなければならないのか？

—うつ病と関連症状群のディメンジョン—

黒木 俊秀 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター



シンポジウム7 うつ病に関する報道とジャーナリズム

7月2日(土) 9:00 ~ 11:30

第1会場(大ホール)

オーガナイザー 加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
岩波 明 昭和大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

周知のように、近年ジャーナリズムにおけるうつ病に関する報道は身近なものとなり、「うつ状態」を訴えて精神科などを受診する患者数は増加しているが、この現象は必ずしもうつ病そのものの増加を示しているわけではない。かつての報道は、うつ病について一般の国民に周知する内容のものが多かったが、最近では、医療や製薬業界への批判もたびたびみかける。特に抗うつ薬に関する報道は、公平さを欠くように思える例も散見する。本シンポジウムにおいては、うつ病とその治療に関する報道について、現状の問題点を検討し各方面からの意見を集約する。

司 会 加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
岩波 明 昭和大学医学部精神医学教室

うつ病報道の現在～新聞社の立場から

加古 陽治 東京新聞社会部

うつ病報道の現在～出版社の立場から

吉住 哲 株式会社サイゾーサイゾー編集部

放送とうつ病

藤原 淳登 NHK名古屋放送局報道部記者

精神医学・脳科学と社会 ～うつ病問題の背景

加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム

ジャーナリズムの中のうつ病～精神医学の立場から

岩波 明 昭和大学医学部精神医学教室

シンポジウム8 双極スペクトラム障害—過少診断か、過剰診断か—

7月2日(土) 14:10 ~ 16:40

第1会場(大ホール)

オーガナイザー 永田 利彦 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

【趣旨・狙い】

双極性障害が注目されている。DSM-5に向けた改訂作業のドラフトを読む限りでは、双極性障害の診断基準を拡大する方向には向かわない様であるが、少なからずの精神科医が、全ての気分障害に双極性が見出されるといふ双極性スペクトラムの提案に戸惑いを感じている。確かに抗うつ薬投与が無効、または悪化させる場合があり、気分安定薬や双極性障害に有効な薬剤の方が有効なことがある。一方で、これだけ気分障害の有病率が上昇しているのに、従来の躁うつ病と同じかを考慮する必要もある。本シンポジウムでは、まず各演者が過剰診断・過少診断について論点を整理し、討論ではどちらの派に関係なく、現実の臨床上の立場から議論を進めたい。

司 会 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
永田 利彦 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

双極スペクトラム障害は過少診断か：治療的見地から

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

過剰診断の問題：パーソナリティ障害における双極性障害

永田 利彦 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

過小診断の問題：双極スペクトラム概念の見地から

田中 輝明 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

過剰診断の問題：児童青年期双極性障害の過剰診断

鈴木 太 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科



双極性障害委員会企画シンポジウム

双極性障害のチーム医療：第2回ISBD Japanese Chapter Meeting

7月2日(土) 9:00～11:00

第2会場(さくら)

オーガナイザー

尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

【趣旨・狙い】

双極性障害の診療には、診断と評価、急性期治療、再発予防を踏まえた社会復帰を目指した維持治療が含まれるが、いずれにおいても、多職種が参加するチーム医療を必要としている。例えば、診断と評価においては、診察場面のみならず、病棟やリワーク場面などでの観察、家族、同僚からの情報などを、総合することによって正確な診断と評価が実現する。治療においては、薬物療法のみならず、心理教育、対人関係療法の必要性が高い。とりわけ、十全な社会復帰を果たすには、多職種によるリワークや、再発予防上の心理社会的治療が必須である。

この様な観点から、双極性障害の診断、治療に必須のチーム医療に関する本シンポジウムを企画した。

司 会

尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

神庭 重信

九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

双極性障害の過小診断と過剰診断－精神医学における過剰診断の歴史をふまえて－

坂元 薫

東京女子医科大学医学部精神医学教室

Bipolar のリワークに向けての就労支援

秋山 剛

NTT東日本関東病院精神神経科

ナラティブアプローチによる双極性障害患者への治療的介入

長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

双極性障害の心理社会的治療

水島 広子

水島広子こころの健康クリニック

慶應義塾大学医学部精神神経科

用語検討委員会企画シンポジウム

日本の医学用語「うつ病」はICD-10、DSM-4のどの病名群を指し示すものと取り決めるか

7月2日(土) 14:10 ~ 15:40

第2会場(さくら)

オーガナイザー 豊嶋 良一 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

【趣旨・狙い】

日常、「うつ病」という医学用語は精神科医療関係者以外の人々も比較的頻繁に用いる機会がある。にもかかわらず、日本の医学用語「うつ病」がICD-10、DSM-4のどの病名群を指し示すかは、取り決めがない。また、これについて当委員会以外では公式に議論・検討されたことが無いようである。当委員会内の多数意見は、①英語病名中のdepression (depressive) という語彙が「抑うつ症状」を意味する場合には「抑うつ(性)」と訳す、②日本語医学用語「うつ病」が指すのは major depressive disorder に相当する「疾患」に限定する、というものである。しかし、少数ながら反対意見もある。これに絡む諸問題を論議し、会場からの意見も交えて、問題点を整理したい。

司 会 豊嶋 良一 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座

「depression」日本語訳の取り決めに関する用語委員会草案とその戦略的意義について

太田 敏男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

うつ病に関する用語検討の問題点について

加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム

ICD-10における「depression」の翻訳問題

大久保 善朗 日本医科大学精神医学教室

「抑うつ関連病名」の社会における使われ方の課題

中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室



コメディカル委員会企画シンポジウム

地域支援：「在宅介護（看護）とうつ状態」

7月2日(土) 15:00～17:00

第3会場(小ホール)

オーガナイザー

森崎 美奈子 京都文教大学大学院臨床心理学研究科
長谷川 雅美 金沢大学医薬保健研究域保健学系

【趣旨・狙い】

訪問看護、保健所の現場で活動する三人のシンポジストによる活動の実態報告を踏まえて、地域支援のあり方や現場のさまざまなうつ状態に対してコメディカルとしての広い知識と接近法を身につけ、社会的ネットワークをどのように適切に活用する必要があるかと言ったことを討議する。できれば民政委員、協力員を中心とした地域を巻き込んだメンタルヘルス支援に関しても検討できればと考える。

国の方針も、「医療」だけではなく、「当事者」へも視点が向いており、コメディカルの関わり方がさらに重要となる今、本シンポジウムへの多くの方々のご参加を願っている。

司 会

森崎 美奈子 京都文教大学大学院臨床心理学研究科
長谷川 雅美 金沢大学医薬保健研究域保健学系

在宅ケアという形での支援のありかた

藤田 茂治 ハントン訪問看護ステーション

保健所のこころの健康施策としての「うつ病家族教室」

徳丸 享 板橋区保健所

保健所におけるうつ病家族教室の報告

橋本 裕美 足立区中央本町保健総合センター

交流の広場 「うつ病」からの復職時に何を考える必要があるのか ～様々な立場から～

7月2日(土) 14:10～16:10

第4会場(銀杏)

コーディネーター

前久保 邦昭 前久保クリニック
井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

【趣旨・狙い】

うつ病に関わる全ての職種の方を対象とし(先着順で45人)、うつ状態から回復過程の事例を通して疾病とその対応への理解を深める。事例に様々な立場から関わる経験を通し、検討すべき多くの側面を知る。様々な立場の参加者が自分の意見を述べられるように配慮する。

司 会

前久保 邦昭 前久保クリニック

「うつ病」からの復職過程で困った1症例

井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

参加方法:先着45名、定員になり次第締め切らせていただきます。

7月2日(土)8:00～受付を開始いたします。総合受付でお申し込みください。

産業医の方へ

交流の広場は日本医師会認定産業医生涯研修会として、日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門2単位を取得できます。



第5回うつ病診療講習会のお知らせ

7月2日(土) 9:00 ~ 14:00

第4会場(銀杏)

日本うつ病学会診療教育委員会は、うつ病臨床のボトムアップのために、2007年より講習会を開催しています。今回は、第5回目となります。標準的なうつ病の診療知識をまとめて学習したい、自らの診療技術に自信がないというプライマリーケア医・内科医・産業医など精神科以外の医師、診療経験の浅い精神科の医師、診療経験年数が長くても、現在のうつ病診断治療についてのアップデートを行い再確認を行いたい医師、を対象としています。

定員：30名

受講料：12,000円(テキスト・受講修了証・昼食代を含む)

参加資格：医師

形式：①少人数でのグループ形式参加型講習会 ②各分野の専門家による講演

講師：診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパート

主催：日本うつ病学会 診療教育委員会

産業医の方へ

第5回うつ病診療講習会は、日本医師会認定産業医生涯研修会として、日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門4単位を取得できます。

日本うつ病学会診療教育委員会
委員長 川崎 弘詔
(九州大学大学院医学研究院精神病態医学)

<プログラム>

内容		担当/演者(所属)
イントロダクション 講習会概略説明		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院精神病態医学)
講演	「うつ病診療の30年間の変化と 職場のメンタルヘルス」	五十嵐 良雄 (メディカルケア虎ノ門)
症例検討①	典型的なメランコリー型 (内因型)うつ病	グループワーク 症例解説:佐々木 高伸 (佐々木メンタルクリニック)
休憩		
講演	「薬物療法の留意点について」	田島 治(杏林大学保健学部 健康福祉学科精神保健学・社会福祉学教室)
症例検討②	現代型うつ病	グループワーク 症例解説:橋本 恵理 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
昼食		
講演	「自己愛的ケースの扱い方」	平島 奈津子 (昭和大学医学部精神医学教室)
講演	「診断のコツと早期発見のコツ」	野村 総一郎 (防衛医科大学校精神科学講座)
講習会まとめ		川崎 弘詔

モーニングセミナー 1

7月1日(金) 8:30 ~ 9:20

第2会場(さくら)

高齢者うつ病－診療のポイント

座長	松永 寿人	兵庫医科大学精神科神経科学講座
演者	馬場 元	順天堂大学医学部・大学院医学研究科精神医学講座
共催	MSD 株式会社	

モーニングセミナー 2

7月1日(金) 8:30 ~ 9:20

第3会場(小ホール)

「うつ病対策に関する共同宣言」が目指すもの

座長	武田 雅俊	大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
演者	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
共催	Meiji Seika ファルマ株式会社 / アステラス製薬株式会社	

ランチョンセミナー 1

7月1日(金) 12:15 ~ 13:15

第1会場(大ホール)

そもそもうつ病治療は手ごわい－最近の抗うつ薬治療について－

座長	平安 良雄	横浜市立大学附属市民総合医療センター 横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門
演者	大坪 天平	東京厚生年金病院精神科・心療内科
共催	持田製薬株式会社 / 田辺三菱製薬株式会社 / 吉富薬品株式会社	

ランチョンセミナー 2

7月1日(金) 12:15 ~ 13:15

第2会場(さくら)

うつ病治療を成功させるために配慮すべきいくつかのポイント

座長	小山 司	北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野
演者	渡邊 衡一郎	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
共催	塩野義製薬株式会社 / 日本イーライリリー株式会社	

ランチョンセミナー 3

7月1日(金) 12:15 ~ 13:15

第3会場(小ホール)

非中核群うつ病の増加と新メンタルヘルズ制度への対応

座長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科
演者	徳永 雄一郎	医療法人社団新光会不知火病院
共催	旭化成ファーマ株式会社 / ヤンセンファーマ株式会社	



ランチオンセミナー 4

7月1日(金) 12:15 ~ 13:15

第4会場(銀杏)

パニック障害 –この30年の歩みを回顧する–

座長	樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
演者	上島 国利	国際医療福祉大学医療福祉学部
共催	ファイザー株式会社	

ランチオンセミナー 5

7月2日(土) 12:00 ~ 13:00

第1会場(大ホール)

現代のうつ病を解剖する –うつ病のトータルマネジメント2011–

座長	大野 裕	慶應義塾大学保健管理センター
演者	坂元 薫	東京女子医科大学医学部精神医学講座
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	

ランチオンセミナー 6

7月2日(土) 12:00 ~ 13:00

第2会場(さくら)

脳卒中後のうつとアパシー

座長	木下 利彦	関西医科大学精神神経科学教室
演者	木村 真人	日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科
共催	Meiji Seika ファルマ株式会社	

ランチオンセミナー 7

7月2日(土) 12:00 ~ 13:00

第3会場(小ホール)

なかなか治らないうつの時代~三環系抗うつ薬は消滅していいのか~

座長	村崎 光邦	CNS薬理研究所 / 北里大学
演者	中村 純	産業医科大学医学部
	田島 治	杏林大学保健学部
	井上 猛	北海道大学大学院医学研究科
共催	アルフレツサファーマ株式会社	

イブニングセミナー 双極性障害治療に何を選択すべきか

7月1日(金) 16:40 ~ 18:10

第3会場(小ホール)

座長

樋口 輝彦

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

気分安定薬と抗精神病薬の使い分け

川崎 弘詔

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

気分安定薬の特徴と使い分け

寺尾 岳

大分大学医学部精神神経医学講座

気分安定薬の特徴と併用効果

加藤 忠史

理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム

共催

協和発酵キリン株式会社



市民公開講座

7月2日(土) 17:30 ~ 19:30

第1会場(大ホール)

第8回日本うつ病学会市民公開講座 / 第12回JCPTD市民公開講座

テーマ：うつ病からの回復—家族のありかたと家族支援—

共 催

日本うつ病学会、一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会、
塩野義製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社

後 援

大阪府、大阪市、社団法人大阪府医師会、社団法人大阪精神科病院協会、
社団法人大阪精神科診療所協会

司 会

白川 治 第8回日本うつ病学会総会会長
近畿大学医学部精神神経科学教室

<プログラム>

開会挨拶： 神庭 重信 日本うつ病学会理事長
九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

講演1： 家族の支えでうつを克服

音無 美紀子 女優

講演2： あの時、諦めなくて良かった！

砂田 くにえ うつの家族の会みなと

講演3： 青少年のうつ病と家族

生野 照子 社会医療法人弘道会浪速生野病院心身医療科

パネルディスカッション

閉会挨拶： 中根 允文 一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会代表理事
長崎大学名誉教授・出島診療所

入 場 料

無料

定 員

800名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。

第8回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方の参加を優先いたします。

第8回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

7月1日(金)8:00～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着100名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。100名を超えた場合には締切らせていただきますので予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

8th JSMD プログラム

一般演題（ポスター）



カテゴリー	ポスター番号	会場
1. 薬物療法	P1-1～P1-18	ポスター会場A(1階)
2. 薬物療法以外の治療法	P2-1～P2-6	
3. 病態・症状・診断・評価	P3-1～P3-32	
4. ライフサイクルとうつ病	P4-1～P4-5	ポスター会場C(2階)
5. 自殺予防と家族への支援	P5-1～P5-12	ポスター会場B(2階)
6. 産業メンタルヘルス	P6-1～P6-15	
7. 症例検討	P7-1～P7-15	
8. その他	P8-1～P8-7	ポスター会場C(2階)



1. 薬物療法

ポスター会場 A(1F)

P1-1

Duloxetineの服薬継続率調査：naturalistic study

大坪 天平¹⁾、佐野 奈々¹⁾、渡邊 壮一郎¹⁾、押淵 英弘²⁾、鄭 怜奈²⁾、熊田 貴之³⁾
1)東京厚生年金病院精神科・心療内科、2)東京女子医科大学精神医学教室、
3)昭和大学医学部精神医学教室

P1-2

ミルタザピンは早期から血清BDNF濃度を増加させる

香月 あすか、吉村 玲児、杉田 篤子、堀 輝、中野 和歌子、中村 純
産業医科大学精神医学教室

P1-3

ミルナシプランの朝1回投与により休業を避けられた4症例

山田 恒^{1,2)}、前久保 邦昭²⁾、辻 正記²⁾
1)貝塚サナトリウム、2)前久保クリニック

P1-4

パロキセチンからセルトラリンへのスイッチングについて

～パロキセチンの離脱症状を最小限にし、円滑にスイッチングするために～
西崎 真紀
新和ヒロカワクリニック

P1-5

治療抵抗性の急速交代型双極性障害重症うつ病エピソードに対してlamotrigineが著効した1例

出口 裕彦、岩崎 進一、松井 徳造、井上 幸紀、切池 信夫
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P1-6

双極性障害にラモトリギンが効果を認めた5症例

常岡 俊昭¹⁾、檀 瑠影¹⁾、清水 勇人¹⁾、杉沢 諭²⁾、稲本 淳子¹⁾、加藤 進昌¹⁾
1)昭和大学医学部精神医学教室、2)昭和大学薬学部病院薬剤学教室

P1-7

大うつ病患者に対するアリピプラゾール増強療法の有効性と問題点について －即効性と効果減弱に対する考察－

米澤 治文¹⁾、大田垣 洋子¹⁾
1)京橋心療クリニック、2)いしい記念病院精神科

P1-8

難治性双極Ⅰ型障害の両病相にaripiprazoleが奏功し就労可能となった2症例

佐藤 悟朗、西村 豊、皆川 英明、藤田 康孝、久都内 貴、田原 一優、信谷 明宏、
渡邊 玲子、岩崎 庸子、矢田 博己
医療法人社団更生会草津病院

P1-9

双極性感情障害の長期維持療法を目的にAripiprazoleを使用した5症例の検討

石塚 卓也、藤田 雅也
医療法人社団碧水会長谷川病院精神科

P1-10

双極I型障害の維持療法にアリピプラゾールが有効であった1例

富永 格

独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター

P1-11

双極I型障害急性期に対する非定型抗精神病薬アリピプラゾールのプラセボ対照二重盲検比較試験

黒木 俊秀¹⁾、神庭 重信²⁾、片野 民貴³⁾、八木 誉晶³⁾、AMAZE 研究グループ⁴⁾

1)国立病院機構肥前精神医療センター、2)九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野、3)大塚製薬株式会社、4)アジア6カ国・91施設

P1-12

双極性混合状態に対するaripiprazole oral solutionの効果

—効果的な使用法の検討—

片上 哲也、織田 裕行、木下 利彦

関西医科大学精神神経科学教室

P1-13

味覚障害を訴えた軽症リチウム中毒の一例

渡邊 昌祐¹⁾、寺尾 岳²⁾、帆秋 伸彦²⁾

1)財団法人河田病院心療内科、2)大分大学医学部精神神経医学教室

P1-14

福岡県のうつ病治療の現状に関する多施設調査

中野 和歌子、吉村 玲児、中村 純

産業医科大学精神医学教室

P1-15

日本における5年間の抗うつ薬の処方実態 —睡眠薬との併用—

三島 和夫¹⁾、榎本 みのり¹⁾、古田 光²⁾、北村 真吾¹⁾、片寄 泰子¹⁾、野崎 健太郎¹⁾、肥田 昌子¹⁾、守口 善也¹⁾

1)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部、2)東京都健康長寿医療センター精神科

P1-16

大うつ病性障害患者における認知機能障害に対するベンゾジアゼピン系薬物の影響についての臨床的検討

清水 祐輔¹⁾、北川 信樹¹⁾、豊島 邦義²⁾、三井 信幸¹⁾、藤井 泰¹⁾、賀古 勇輝¹⁾、田中 輝明¹⁾、小山 司¹⁾

1)北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野、2)俱知安厚生病院精神神経科

P1-17

抗うつ薬で誘発される性機能障害に関する検討

佐藤 晋爾¹⁾、高尾 哲也²⁾、袖山 紀子³⁾、朝田 隆¹⁾

1)筑波大学臨床医学系精神医学、2)水戸メンタルクリニック、3)石崎病院

P1-18

当院での気分安定薬、非定型抗精神病薬の使用状況について

—Soft Bipolarの視点から—

前久保 邦昭¹⁾、山田 恒^{1,2)}、森 千栄子¹⁾、穴戸 順子¹⁾、辻 正記¹⁾

1)前久保クリニック、2)貝塚サナトリウム



2. 薬物療法以外の治療法

ポスター会場 A(1F)

P2-1

うつ病患者の復職支援プログラム(リ・スタートプログラム)における評価のポイント

中垣 朝子¹⁾、徳永 雄一郎²⁾、山下 秀一¹⁾

1)医療法人新光会不知火クリニック、2)医療法人新光会不知火病院

P2-2

うつ病患者の職場復帰支援プログラムにおける作業療法の有効性 ー作業を介して認識する職場ストレスの要因ー

早坂 友成^{1,3)}、稲富 宏之²⁾、阪尾 学³⁾、松井 美智子³⁾、阪尾 紀子³⁾、中村 晃子³⁾、
大南 絵里³⁾、下地 麻由子³⁾、田口 あかり³⁾、杉江 康子³⁾

1)大阪保健医療大学保健医療学部リハビリテーション学科、

2)兵庫医療大学リハビリテーション学部作業療学科、3)阪尾なんばメンタルクリニック

P2-3

復職トレーニング専門デイケアにおけるマインドフルネス心理教育プログラムの 経過報告～反芻とアクセプタンスを指標として～

名倉 祥文、片桐 陽子、伊東 優

医療法人栄仁会宇治おうばく病院

P2-4

外来復職デイケアにおける集団認知行動療法のグループの違いに伴う「自己注目」 の特徴～自己注目と他者注目の視点から～

長岡 敬子、宮武 ゆかり、氏家 健、鹿野 麗子

医療法人亀廣記念医学会関西記念病院心療内科・精神科

P2-5

女性アルコール依存症者の女性AAミーティング参加への思い ～うつ状態移行への予防に焦点をあてて～

河村 一海、長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

P2-6

弁証法的アプローチを用いた情動コントロール促進プログラムの開発 ー感情管理型プログラムとの融合ー

小谷野 康子¹⁾、宮本 真巳²⁾、立石 彩美¹⁾、森 真喜子³⁾、小泉 仁子⁴⁾

1)順天堂大学医療看護学部、2)東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科、3)北里大学看護学部、

4)筑波大学大学院医学群看護科学系

3. 病態・症状・診断・評価

ポスター会場 A(1F)

P3-1

うつ病の治療で血漿BDNFは寛解群では増加するが非反応群では減少する
—うつ病の治療における血漿BDNF測定の有用性(第2報)—栗田 征武^{1,2)}、西野 敏^{1,2)}、加藤 舞子¹⁾、武吉 健児^{1,3)}、沼田 由紀夫¹⁾、佐藤 忠宏¹⁾、
中畑 則道²⁾

- 1) 社会医療法人公徳会佐藤病院、2) 東北大学大学院薬学研究所細胞情報薬学分野、
- 3) 日本医科大学精神神経科

P3-2

耳鳴のバイオマーカーとしてのBDNFの有用性の検討

五島 史行¹⁾、神崎 晶²⁾、三村 将³⁾、猿田 樹里⁴⁾、槻木 恵一⁴⁾

- 1) 日野市立病院耳鼻咽喉科、2) 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、3) 慶應義塾大学医学部精神神経科、
- 4) 神奈川歯科大学口腔病理学

P3-3

服薬中のうつ病におけるBDNFと臨床症状の関連 第2報

里村 恵美¹⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、喜多 洋平^{1,3)}、滑川 友紀^{1,2)}、
植村 奈緒子¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

- 1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
- 3) 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

P3-4

寛解期うつ病患者における記憶機能とBDNFの関連について

植村 奈緒子¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、里村 恵美¹⁾、喜多 洋平^{1,3)}、
滑川 友紀^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

- 1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂越谷病院、3) 順天堂高齢者医療センター

P3-5

うつ病患者における血中アミロイドβタンパクとコルチゾールおよびDHEAの
関連性喜多 洋平^{1,3)}、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、里村 恵美¹⁾、滑川 友紀^{1,2)}、
植村 奈緒子¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

- 1) 順天堂大学医学部精神医学教室、Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)、
- 2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
- 3) 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

P3-6

老年期うつ病の認知障害の予後を予測する生化学的因子の検討

清水 英之¹⁾、田中 宏明¹⁾、黒沢 顕三¹⁾、山田 浩樹¹⁾、蜂須 貢²⁾、竹林 実³⁾、
三村 将⁴⁾

- 1) 昭和大学精神医学教室、2) 昭和大学薬学部臨床精神薬学教室、
- 3) 国立病院機構呉医療センター精神科・臨床研究部、4) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

P3-7

うつ病の治療経過中にSSRI誘発性アパシーを呈した患者の光トポグラフィによる
検討秋山 友美、小野 紘子、横田 雅実、中山 菜央、池森 紀夫、下田 健吾、木村 真人
日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科



P3-8

うつ病患者における自殺傾性とNIRSによる脳機能評価

辻井 農亜¹⁾、切目 栄司¹⁾、明石 浩幸¹⁾、左海 真介¹⁾、坪倉 知生¹⁾、西口 直希²⁾、
白川 治¹⁾

1)近畿大学医学部精神神経科学教室、2)兵庫教育大学大学院学校教育研究科

P3-9

うつ病の重症度とNIRSを用いた脳機能評価

左海 真介¹⁾、明石 浩幸¹⁾、辻井 農亜¹⁾、切目 栄司¹⁾、坪倉 知生¹⁾、西口 直希²⁾、
白川 治¹⁾

1)近畿大学医学部精神神経科学教室、2)兵庫教育大学大学院学校教育研究科

P3-10

音声に対するNeural oscillationを用いた双極性障害と統合失調症の鑑別

織部 直弥¹⁾、鬼塚 俊明¹⁾、平野 昭吾¹⁾、平野 羊嗣¹⁾、前川 敏彦¹⁾、大林 長二¹⁾、
上野 雄文¹⁾、笠井 清登²⁾、神庭 重信¹⁾

1)九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2)東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

P3-11

高齢者のMCIとうつに対するVSRADによる検討

横田 雅実、秋山 友美、小野 紘子、池森 紀夫、下田 健吾、木村 真人
日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P3-12

双極性障害のスクリーニングを目的としたTEMPS-A短縮版の臨床応用

田中 輝明、井上 猛、鈴木 克治、仲唐 安哉、亀山 梨絵、小山 司
北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

P3-13

**社会適応能力評価尺度(SASS)を用いた抗うつ薬の臨床効果の検討
—復職を目標として—**

横山 太範¹⁾、横山 亜由美¹⁾、長谷川 直実²⁾、三浦 彌³⁾

1)医療法人社団心劇会さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ、
2)デイケア・クリニックほっとステーション、3)三浦メンタルクリニック

P3-14

入院うつ病患者の退院と社会適応力に関する検討

坂本 岳之¹⁾、児野 愛未¹⁾、山本 摩梨子¹⁾、大柄 昭子¹⁾、中川 敦夫²⁾

1)国立精神・神経医療研究センター病院ストレスケア病棟、
2)国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援室

P3-15

うつ病休職者の職場復帰の困難感と社会機能との関連

田上 明日香^{1,2,3)}、伊藤 大輔^{1,2)}、大野 真由子³⁾、清水 馨^{1,3)}、内堀 麻衣子³⁾、
小野 紘子³⁾、白垣 聡子³⁾、塚 瑞絵³⁾、堀江 朋子³⁾、瀬戸口 和久³⁾、中村 しげ子³⁾、
白井 麻理³⁾、嶋田 洋徳⁴⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)日本学術振興会特別研究員、3)小石川メンタルクリニック、
4)早稲田大学人間科学学術院

P3-16

大うつ病、双極性うつ病におけるLSAS-JとSDSの相関について

前久保 邦昭¹⁾、花尾 晋一²⁾、森 千栄子¹⁾、穴戸 順子¹⁾、辻 正記¹⁾、山田 恒^{1,3)}

1)前久保クリニック、2)はなまるメンタルクリニック、3)貝塚サナトリウム

P3-17

児童期発症の双極性障害の診断上の問題点

岡田 章¹⁾、松尾 順子¹⁾、船津 浩二²⁾、辻井 農亜^{1,2)}、白川 治²⁾

1)近畿大学医学部奈良病院メンタルヘルス科、2)近畿大学医学部附属病院精神神経科

P3-18

青年期うつ病における抗うつ薬の初期反応性についての臨床的検討：診断変更の予測因子となりうるか？

有田 編理、田中 輝明、仲唐 安哉、鈴木 克治、亀山 梨絵、北川 信樹、井上 猛、
小山 司

北海道大学病院精神科神経科

P3-19

妊産婦の抑うつ状態と損害回避の関係性：前向きコホート研究の結果から

古村 香里¹⁾、小出 隆義¹⁾、早川 徳香^{1,2)}、村瀬 聡美^{1,3)}、尾崎 紀夫¹⁾

1)名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、2)南山大学、3)リエゾンメディカル丸の内

P3-20

妊産婦抑うつ状態と母親の被養育体験との関係：前向きコホート研究から

早川 徳香^{1,2)}、古村 香里¹⁾、村瀬 聡美^{1,3)}、尾崎 紀夫¹⁾

1)名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、2)南山大学総合政策学部、

3)リエゾンメディカル丸の内

P3-21

女性社交不安障害の短期予後と大うつ病エピソードおよび非定型の特徴との関連

永田 利彦¹⁾、山田 恒²⁾、吉村 知穂¹⁾、中島 豪紀¹⁾、切池 信夫¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、2)貝塚サナトリウム

P3-22

大阪市立総合医療センター緩和ケアにおける不安・抑うつの調査

～緩和医療におけるうつ・適応障害の把握～

林 皓章^{1,2)}、甲斐 利弘²⁾、引地 克仁²⁾、街 久^{1,2)}、松田 泰範^{1,2)}、粥川 朋哉²⁾、
春原 敦²⁾、古塚 大介¹⁾、豊永 公司²⁾

1)大阪市こころの健康センター、2)大阪市立総合医療センター精神神経科

P3-23

大阪市立総合医療センターの緩和ケアにおける不安・抑うつの調査

～緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来での調査～

甲斐 利弘¹⁾、林 皓章^{1,2)}、引地 克仁¹⁾、街 久^{1,2)}、松田 泰範^{1,2)}、粥川 朋哉¹⁾、
春原 敦¹⁾、古塚 大介²⁾、豊永 公司¹⁾

1)大阪市立総合医療センター精神神経科、2)大阪市こころの健康センター

P3-24

心療内科外来におけるうつ傾向の患者の病態

小山 敦子、仁木 稔、松岡 弘道、酒井 清裕、阪本 亮、陣内 里佳子、保田 佳苗
近畿大学医学部堺病院心療内科

P3-25

抑うつ症状を主訴として九州大学精神科神経科外来を新規受診した患者の人格、感情プロフィールおよびQOL調査

勝木 聡美¹⁾、三浦 智史¹⁾、後藤 玲央¹⁾、堀井 麻千子²⁾、本村 啓介²⁾、鬼塚 俊明²⁾、
神庭 重信¹⁾

1)九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2)九州大学病院精神科神経科



P3-26

寛解したうつ病患者の記憶機能

前嶋 仁^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、小沢 和弘¹⁾、萩谷 久美子¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、
新井 平伊^{1,2)}

1)順天堂越谷病院メンタルクリニック、2)順天堂大学医学部精神医学教室

P3-27

回避行動と行動活性から示される行動的特徴と抑うつ症状との関連

高垣 耕企^{1,2)}、岡島 義^{3,4)}、国里 愛彦⁵⁾、中島 俊^{3,4)}、金井 嘉宏⁶⁾、石川 信一⁷⁾、
坂野 雄二⁸⁾

1)北海道医療大学大学院心理科学研究科、2)日本学術振興会特別研究員、
3)財団法人神経研究所附属睡眠学センター、4)東京医科大学睡眠学講座、
5)早稲田大学人間科学学術院、6)東北学院大学教養学部、7)宮崎大学教育文化学部、
8)北海道医療大学心理科学部

P3-28

双極性障害における希死念慮の安定化についての考察

田中 理香

スタジオリカクリニック

P3-29

当院における感情障害の分類について－Soft Bipolarの視点から－

前久保 邦昭¹⁾、森 千栄子¹⁾、穴戸 順子¹⁾、辻 正記¹⁾、山田 恒^{1,2)}

1)前久保クリニック、2)貝塚サナトリウム

P3-30

精神病様症状を伴うメランコリー型うつ病に対する治療の試み

桑原 治雄

桑原クリニック京都

P3-31

うつ病と睡眠時無呼吸症候群の併発例の経過および治療－自験例を通じて－

下田 健吾、木村 真人

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P3-32

うつ病に発症した口腔異常感症（味覚異常、異味症）

石田 恵

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野

4. ライフサイクルとうつ病

ポスター会場 C(2F)

P4-1

児童の集団SSTによる抑うつ低減の長期的維持効果：3年間フォローアップ

田中 利枝¹⁾、石川 信一²⁾、佐藤 寛³⁾、尾形 明子²⁾、戸ヶ崎 泰子²⁾、佐藤 容子²⁾、
佐藤 正二²⁾

1)宮崎大学大学院教育学研究科、2)宮崎大学教育文化学部、3)関西大学社会学部

P4-2

ディスチミア親和型うつ病に対する大学生と社会人の捉え方の違い

藤田 結子¹⁾、増田 麻未¹⁾、竹谷 怜子²⁾、辻本 江美²⁾、建部 紀美子¹⁾、植野 修平¹⁾、
徳山 周司¹⁾、藤原 亜侑美¹⁾、近藤 志男¹⁾、小野 久江^{1,2)}

1)関西学院大学文学部総合心理科学科教育心理学専修、

2)関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P4-3

専業主婦（子育て中）の入院治療における効果と看護師の役割

森 理恵、厚母 美樹、馬渡 和代

財団法人神経研究所附属晴和病院

P4-4

高齢者うつ病の心理特性－POMS短縮版を用いた対照との比較研究－

服部 英幸、高橋 慶子

独立行政法人国立長寿医療研究センター行動心理療法

P4-5

ネガティブ・ライフイベントはうつ病の重症度にどのように影響しているか？

太刀川 弘和¹⁾、相羽 美幸²⁾、根本 清貴¹⁾、伊藤 あかり¹⁾、小松崎 智恵³⁾、朝田 隆¹⁾

1)筑波大学大学院人間総合科学研究科精神病態医学、2)筑波大学大学院社会心理学教室、

3)茨城県立友部病院



5. 自殺予防と家族への支援

ポスター会場 C(2F)

P5-1

大学生の全体的健康度と抑うつ状態・自殺との関係についての研究

竹谷 怜子¹⁾、辻本 江美¹⁾、藤井 紗波²⁾、貝 美奈帆²⁾、前田 直人²⁾、小野 久江¹⁾

- 1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
- 2) 関西学院大学文学部総合心理科学科教育心理学専修

P5-2

大学生のストレスコーピングと抑うつ状態・自殺との関係について

辻本 江美¹⁾、竹谷 怜子¹⁾、菊池 真緒²⁾、西窪 瑠衣²⁾、砂川 智子²⁾、西川 未穂²⁾、
矢野 美琴²⁾、小野 久江^{1,2)}

- 1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
- 2) 関西学院大学文学部総合心理科学科教育心理学専修

P5-3

中高年の自殺企図患者とうつ病入院患者との臨床症候の相違に関する検討

高橋 晶^{1,2)}、太刀川 弘和²⁾、野瀬 真由美¹⁾、新井 晶子³⁾、益子 一樹³⁾、上野 幸廣³⁾、
阿竹 茂³⁾、河野 元嗣³⁾、朝田 隆²⁾

- 1) 筑波メディカルセンター病院精神科、2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科精神病態医学分野、
- 3) 筑波メディカルセンター病院救急診療科

P5-4

愛媛県での地域自殺対策緊急強化事業の取り組み（第1報）

大中 俊宏¹⁾、河野 英明²⁾、河野 太一²⁾、谷村 千里²⁾、廣瀬 浩美³⁾、竹之内 直人⁴⁾、
武方 誠二⁵⁾、村松 つね⁶⁾、池田 誠二⁷⁾、大久保 雅代⁸⁾

- 1) 四国がんセンター精神科・心療内科、2) 愛媛県保健福祉部健康衛生局健康増進課、
- 3) 愛媛県四国中央保健所、4) 愛媛県松山保健所、5) 愛媛県八幡浜保健所、6) NPO法人こころ塾、
- 7) 愛媛県司法書士会、8) 愛媛県スクールカウンセラー

P5-5

地域特性に合わせた自殺予防への取り組み 和歌山からの報告

東 睦広¹⁾、厚坊 浩史²⁾、小野 善郎³⁾、保坂 隆⁴⁾、切目 栄司⁵⁾、白川 治⁵⁾

- 1) 日本赤十字社和歌山医療センター、
- 2) 独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター、3) 和歌山県精神保健福祉センター、
- 4) 聖路加国際病院精神腫瘍科、5) 近畿大学医学部精神神経科学教室

P5-6

茨城県における自殺既遂者の動機間関係のネットワーク分析

白鳥 裕貴^{1,2)}、太刀川 弘和³⁾、根本 清貴³⁾、遠藤 剛^{2,4)}、井口 俊大¹⁾、水上 勝義³⁾、
朝田 隆³⁾

- 1) 茨城県立友部病院、2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程、
- 3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、4) 池田病院

P5-7

自殺対策ゲートキーパー研修の効果～職種別の理解度について

遠藤 剛^{1,2)}、太刀川 弘和²⁾、白鳥 裕貴^{2,3)}、井口 俊大³⁾、根本 清貴²⁾、相羽 美幸⁴⁾、
森田 展彰²⁾、朝田 隆²⁾

- 1) 池田病院、2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、3) 茨城県立友部病院、
- 4) 筑波大学大学院社会心理学教室

P5-8

うつ病患者家族とうつ病者との対話分析に関する研究

高橋 清美

日本赤十字九州国際看護大学

P5-9

うつ病者家族と統合失調症者家族が経験する困難な出来事の類似と相違

木村 洋子¹⁾、長谷川 雅美²⁾、藤田 茂治³⁾、上平 悦子¹⁾、森田 公美子⁴⁾、寺田 悦子⁵⁾、
桑名 行雄⁶⁾

1)大阪府立大学看護学部、2)金沢大学大学院医学系研究科、

3)ハントン訪問看護ステーション、4)奈良県立医科大学精神医療センター、

5)NPO法人多摩在宅支援センター円、6)大阪府立大学大学院看護学研究科

P5-10

自殺企図歴のあるうつ病患者へのナラティブアプローチ

—回復を実感できた—事例—

長田 恭子、長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

P5-11

うつ病入院治療における日本ストレスケア病棟研究会の現状

徳永 雄一郎

不知火病院

P5-12

うつ病における自他覚症状の乖離とNIRSを用いた脳機能評価

—自殺傾性との関連—

明石 浩幸、辻井 農亜、切目 栄司、左海 真介、坪倉 知生、西口 直希、白川 治

近畿大学医学部精神神経科学教室



6. 産業メンタルヘルス

ポスター会場 B(2F)

P6-1

うつ病勤労者の復職継続群と復職失敗群における復職決定時における差異 ～精神症状、社会適応度、認知機能、背景情報からの検討～

堀 輝、香月 あすか、林 健司、守田 義平、吉村 玲児、中村 純
産業医科大学精神医学教室

P6-2

職場における休職前の兆候尺度の作成

清水 馨¹⁾、田上 明日香^{1,2,3)}、大野 真由子³⁾、伊藤 大輔^{1,2)}、巢山 晴菜¹⁾、
横山 仁史⁴⁾、鈴木 伸一⁵⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)日本学術振興会特別研究員、3)小石川メンタルクリニック、
4)早稲田大学人間科学部、5)早稲田大学人間科学学術院

P6-3

職場におけるストレス状況の特徴と抑うつ症状の関連

横山 仁史¹⁾、田上 明日香^{2,3)}、清水 馨²⁾、伊藤 大輔^{2,3)}、巢山 晴菜²⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1)早稲田大学人間科学部、2)早稲田大学大学院人間科学研究科、3)日本学術振興会特別研究員、
4)早稲田大学人間科学学術院

P6-4

教諭の職業性ストレスと抑うつ症状との関連性について

中尾 剛久¹⁾、井上 幸紀²⁾、岩崎 進一²⁾、山内 常生²⁾、出口 裕彦²⁾、室矢 匡代²⁾、
小林 由美²⁾、切池 信夫²⁾

1)向聖台会當麻病院、2)大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P6-5

休業時、復職時のSDSの結果から見る休業予防へのヒント

前久保 邦昭¹⁾、森 千栄子¹⁾、穴戸 順子¹⁾、辻 正記¹⁾、山田 恒^{1,2)}

1)前久保クリニック、2)貝塚サナトリウム

P6-6

職場の環境要因と個人要因がうつ症状と生産性に及ぼす影響

伊藤 大輔^{1,2)}、田上 明日香^{1,2)}、清水 馨¹⁾、巢山 晴菜¹⁾、横山 仁史³⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1)早稲田大学大学院人間科学研究科、2)日本学術振興会特別研究員、3)早稲田大学人間科学部、
4)早稲田大学人間科学学術院

P6-7

復職支援デイクアに求められるプログラムに関する調査

塩崎 一昌、片柳 光昭、稲毛 雅子、高橋 友美
横浜市総合保健医療センター地域精神保健部

P6-8

認知行動療法に基づく復職支援プログラムの取り組み —個人の課題に合わせたプログラム作り—

松本 啓輔、加藤 正
医療法人和心会あらたまこころのクリニック

P6-9

地方自治体とEAP機関の協働による復職支援プログラム構築の取り組み

田中 美穂^{1,2)}、中田 貴晃¹⁾

1)(株)アドバンテッジリスクマネジメント、2)筑紫女学園大学大学院人間科学専攻

P6-10

認知療法活用WEBサイトを活用した職域でのメンタルヘルス教育プログラム

田島 美幸¹⁾、武智 小百合²⁾、藤澤 大介³⁾、大野 裕⁴⁾

- 1) 慶應義塾大学医学部ストレス・マネジメント室、
- 2) 慶應義塾大学大学院医学研究科、
- 3) 国立がん研究センター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発部、
- 4) 慶應義塾大学保健管理センター

P6-11

復職への不安に対するストレスマネジメントの一方法としての曝露法の有効性

山本 貢司¹⁾、松村 英哉¹⁾、横田 安奈¹⁾、後藤 健一¹⁾、三木 和平^{1,2)}

- 1) 横浜ストレスケアクリニック、
- 2) 三木メンタルクリニック

P6-12

うつ病患者の職域対人関係への意識と休職中における療養上の課題

関口 潔

国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科

P6-13

復職支援現場における光トポグラフィ計測

敦森 洋和¹⁾、山口 律子²⁾、岡野 依子²⁾、佐藤 大樹¹⁾、舟根 司¹⁾、木口 雅史¹⁾

- 1) (株)日立製作所中央研究所、
- 2) NPO法人MDA (うつ・気分障害協会)

P6-14

職場のメンタルヘルス不全者の発生要因についての検討

伊藤 克人

東急電鉄健康管理センター心療内科

P6-15

職域におけるハラスメントによる健康障害の調査研究

植木 啓文

岐阜大学医学部附属病院精神神経科

**7. 症例検討**

ポスター会場 B(2F)

P7-1

うつ病性昏迷様の意識障害を呈したPosterior Reversible Encephalopathy Syndrome (PRES)の一例中井 雄大¹⁾、片上 素久¹⁾、竹内 潤²⁾、嶋田 裕之²⁾、三木 隆己²⁾、切池 信夫¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、

2)大阪市立大学大学院医学研究科老年内科・神経内科

P7-2

過眠による出勤困難が遷延する背景に閾値以下の双極性を認め、リチウムが奏功した2症例

中西 善久

中西心療内科・内科医院

P7-3

多剤処方抗うつ薬を即日中止し、安全にバルプロ酸・オランザピンへ置換しえた双極II型の2症例石川 千明¹⁾、小笠原 一能^{1,2)}

1)医療法人亀廣記念医学会関西記念病院心療内科・精神科、

2)名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

P7-4

ケタミンを用いた電気けいれん療法が奏功した治療抵抗性うつ病の1例

伊賀 淳一、山田 直輝、大森 哲郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

P7-5

双極I型障害の遷延するうつ状態に対するAripiprazole併用療法を試みた3例

西山 聡

倉吉病院

P7-6

Aripiprazoleが奏効した反復性短期抑うつ障害の1症例

本村 啓介

九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

P7-7

コントロール不良であった双極性障害躁病エピソードに対してアリピプラゾール急速療法を施行した2症例

渡邊 俊介、富士岡 章、松尾 幸治、渡邊 義文

山口大学医学部附属病院精神科神経科

P7-8

双極性障害におけるAripiprazoleの有用性

斎藤 広生

江北メンタルクリニック

P7-9

双極I型障害患者に対するAripiprazoleの2症例 - 社会復帰を目指して -原 孝¹⁾、片山 寛人^{1,2)}

1)資生会八事病院、2)名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

P7-10

練炭による自殺企図後の間歇型一酸化炭素中毒に対して高気圧酸素療法を施行した一例

後藤 彩子¹⁾、山内 常生¹⁾、松井 徳造¹⁾、藤瀬 嘉一²⁾、切池 信夫¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、2)医療法人永和会員塚サナトリウム

P7-11

**反復性うつ病性障害を持つ高齢者への看護援助に関する試み
ー「自己ー非自己循環理論」の適用ー**

村瀬 智子

近大姫路大学看護学部看護学科

P7-12

**心療内科病院のチーム医療による復職プログラム実施の試み2
～多様化するうつ病およびニーズへの対応～**

大塚 明子¹⁾、日下 朗¹⁾、村山 宏治¹⁾、竹谷 梨沙¹⁾、喜入 瑞央²⁾、中村 吉伸¹⁾、
久保木 富房^{1,3)}

1)心療内科病院楽山、2)早稲田大学大学院人間科学研究科、3)東京大学

P7-13

“できていること”への注目が、復職に向けた自信の回復に効果的であったうつ病の一症例

大野 真由子¹⁾、瀬戸口 和久¹⁾、中村 しげ子¹⁾、内堀 麻衣子¹⁾、小野 紘子¹⁾、
清水 馨²⁾、白垣 聡子¹⁾、田上 明日香^{2,3)}、塚 瑞絵¹⁾、堀江 朋子¹⁾、白井 麻理¹⁾

1)小石川メンタルクリニック、2)早稲田大学大学院人間科学研究科、3)日本学術振興会特別研究員

P7-14

復職を目的としたストレスケア病棟での入院治療から、退院後に復職デイケアを利用し安定した職場定着につながった事例

池田 沙弥香、沼田 あやの、小泉 聡子

医療法人亀廣記念医学会関西記念病院

P7-15

うつ病者の復職支援ー精神保健福祉士の試み

山田 妙韶

大阪女子短期大学



8. その他

ポスター会場 C(2F)

P8-1

うつ病の普及啓発の効果と課題

厚坊 浩史¹⁾、東 睦広²⁾、保坂 隆³⁾

- 1) 国立病院機構南和歌山医療センターこころの相談室、
- 2) 日赤和歌山医療センター精神科部、
- 3) 聖路加国際病院精神腫瘍科

P8-2

うつ病患者の当事者グループの活動に対する認識

大江 真人¹⁾、長谷川 雅美²⁾

- 1) 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程、
- 2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

P8-3

医師のうつ病に対する態度と関連する要因の検討

稲垣 正俊^{1,2)}、大槻 露華¹⁾、小高 真美²⁾、酒井 ルミ³⁾、石蔵 文信⁴⁾、渡辺 洋一郎⁵⁾、山田 光彦²⁾

- 1) 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター、
- 2) 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部、
- 3) 兵庫県立精神保健福祉センター、
- 4) 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、
- 5) 社団法人大阪精神科診療所協会

P8-4

21世紀の精神科医療におけるストレスケア病棟の存在意義について ～当院ストレスケア病棟の経験を通して学んだこと～

信田 広晶

医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル

P8-5

Mismatch negativity (MMN)を指標とした双極性障害における前注意機能障害の検討：脳磁図研究

織部 直弥¹⁾、勝木 聡美¹⁾、中村 一太¹⁾、小田 祐子¹⁾、土本 利架子¹⁾、平野 昭吾¹⁾、平野 羊嗣¹⁾、上野 雄文^{1,2)}、鬼塚 俊明¹⁾、神庭 重信¹⁾

- 1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、
- 2) 国際医療福祉大学リハビリテーション学部

P8-6

うつ状態患者におけるLSAS-Jと他の心理検査による検討

鎌田 悠里、中山 菜央、横田 雅実、池森 紀夫、下田 健吾、木村 真人

日本医科大学千葉北総病院

P8-7

脳血管障害後のうつとアパシーの関連、及び破局反応について

小野 紘子¹⁾、横田 雅実¹⁾、鎌田 悠里³⁾、水成 隆之²⁾、木村 真人¹⁾

- 1) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、
- 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科、
- 3) 聖心女子大学大学院文学研究科